

第2回南知多町総合計画審議会 議事概要

日時 令和6年8月1日(木)

13:30～15:30

場所 南知多町役場 大会議室

出席委員

会長	千頭 聡	日本福祉大学 教授
副会長	秦 由岐穂	男女共同参画人材育成セミナー修了者
	山本 直径	南知多町水産振興会代表
	畑中 康弘	あいち知多農協代表
	太田 彰	商工会代表
	宮本 邦彦	南知多プラスチック工業団地協同組合
	鈴木 甚八	南知多町観光協会代表
	黒田 吉生	区長連合会代表
	二宮 達好	南知多町まちづくり協議会代表
	澤田 晟	自主防災代表
	吉原 知味	教育委員代表
	山川 律子	民生委員・児童委員代表
	山下 かず代	社会福祉協議会代表
	榊原 英治	金融機関代表
	岩瀬 雅哉	愛知県市町村課
	宮地 舞	知多半島ケーブルネットワーク株式会社
	山本 多恵	一般公募
	坂野 真由美	一般公募

欠席委員

	鈴木 尚子	小学校 PTA 代表
	尾山 皓一	一般公募

傍聴席

1人

議事次第

あいさつ

議 題

- (1) 第1回審議会意見への回答について
- (2) 目標指標 (KGI) 及び中期計画(案)について
- (3) 町民意識調査結果及び基本施策の数値目標について

その他

議題概要

議題1 第1回審議会意見への回答について

【事務局の主な説明】

- ・資料1-1は、第1回審議会でごいただいたご意見や宿題に対する回答を作成。
- ・資料1-2は、知多半島5町の転出入を表したグラフ。南知多町と似たような形のグラフは美浜町だが、美浜町には大学があるので、そのまま鵜呑みにしてはいけない。阿久比町は乳児とその親世代の転入が増えている。
- ・資料1-3は、令和4年1月から 12 月の間に南知多町へ転入してきた人の内訳を表している。全く転入がないわけではないが、転入以上に転出が多いということが実態である。
- ・第2回審議会の事前意見に対する回答を机上に配布した。お目通しいただき、気づいたことがあればご意見いただきたい。

【委員の主な意見】

(千頭 聡 会長)

- ・知多半島は住宅地が開発されると急に人口が増える傾向にあるが、増加がずっと続くわけではない。また、美浜町に関しては大学があるため、18～19 歳で転入が増加して 22 歳になったら沢山転出するので、増えた分は減った分で相殺されるということになる。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・美浜町の大学入学時は転入超過が 500 人であることに対して、新卒・就学時で約 1,500 人転出超過しているので、結果的には地域のお子さん達が 1,000 人程度減っていると思う。南知多町は 400～500 人の転出超過なので、美浜町より南知多町の方が地元に着しやすということか。

(千頭 聡 会長)

- ・南知多町は1次産業や3次産業が多くあるので働き口としては既にあるが、中学生や高校生がその働き口をどのように評価するかということがポイントになると思う。
- ・「事前意見・質問書への回答」質問番号9にて、評価委員会での結果や町民意識調査の結果が、総合計画やアクションプランに反映されていないのではないかという質問がある。この意見を受け止めて、8月5日に開催される評価委員会で議論が出来ればよいと思う。

議題2 目標指標(KGI)及び中期計画(案)について

【事務局からの主な説明】

- ・最新の社人研データによる将来人口シミュレーションが発表されたこともあり、KGI「令和 14 年時点で維持すべき出生数 75 人」を改めて検討し、③パターンのシミュレーションをお示しする。
- ・①は最新の国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)が推計した最新の将来人口。計画策定時の社人研の推計値と若干変わっている。(KGI 63 人)
- ・②は①のシミュレーションのうち、前期計画と同じ考え方で計算し、合計特殊出生率令和 12 年に 1.5、令和 22 年に 1.8 を達成し、かつ転出超過数を半分になると仮定した。(KGI 78 人)
- ・③は②のシミュレーションのうち、合計特殊出生率を徐々に増加させ、1.8 になる時期を令和 32 年までに設定した。転出超過数を半分にするのは同じである。(KGI 65 人)
- ・令和 30 年の人口 10,000 人は②と③が概ね達成しているが、合計特殊出生率は②のように短期間で向上することは難しい。これよりは幾分ゆるやかな③を採用し、事務局としては中期計画において KGI 65 人を提案する。

【委員の主な意見】

(澤田 晟 委員)

- ・人口総数を指標とする際には、高齢者ばかりでは子どもは産まれないので、人口構造をしっかりと考えていただきたい。

(榊原 英治 委員)

- ・国外からの転入者(技能実習生を含む)が 673 人とのことだが、人口構造を考えるうえで技能実習生は今後も住み続けるという前提か。

(事務局)

- ・人口シミュレーションは国勢調査の数値を使用しているため、技能実習生か否かという区別はしていない。技能実習生の方々をどのように充てるかについては、現段階で議論出来ない。

(千頭 聡 会長)

- ・技能実習生は入れ代わり立ち代わりで、同じ人数が動けば総人口は変わらない。一口に外国人といっても在留資格によって扱い方が異なる。

(山本 多恵 委員)

- ・近年の出生数を考えると、策定当初の KGI 75 人は厳しいと思う。今年の1月から半年の間に産まれた子どもはどれくらいいるか。

(事務局)

- ・今年の1月から6月末までの出生数は 27 人。

(山本 多恵 委員)

- ・KGI は、令和 30 年に 10,000 人を達成することが前提か。

(事務局)

- ・令和 30 年に概ね 10,000 人に達成するために、社人研のデータの数値を一部変えて、計算をしている。その際の出生数がどれくらい期待できるかという数値が、KGI となっている。

(千頭 聡 会長)

- ・大学の生徒に子どもを産むことをどのように考えているかを議論させたところ、約8割の学生がリスクと感じていた。そのため、出生数を上げるだけで人口を維持させることは現実的に難しい。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・KGI 65 人の場合、どれくらいの女性が南知多町に残る前提か。

(事務局)

- ・15～49 歳の女性人口は約 1,800 人が残る推計。

(榊原 英治 委員)

- ・出生率を上げることを考えるだけでなく、子どもの転入を増やすということに着目をしてはどうか。今はウェブ上で高校の授業を受けることもできる。その授業形態を望む世帯の転入を増やす政策なども人口を増やす手段の一つだと考える。

(山下 かず代 委員)

- ・15～49 歳の女性人口を基準に出生数を出しているようだが、15 歳や 49 歳で産むことは現実的ではない。もう少し現実的に考えるべき。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・今までの総計に関する会議でも言ったが、岐阜市の公立中学校では不登校特例校を開設し、定員の5倍程の応募があった。公共施設再配置に取り組まれているので、そういった施策もう一度検討していただきたい。

(事務局)

- ・現段階で使用しなくなった学校についての話はないが、事業に使用するなど様々な提案がある。
- ・KGI で出生数を設けているものの、今後そこに至るまでの過程で何が出来るか提案していくので、今後共有させていただく。

(千頭 聡 会長)

- ・小中学生世代の転入を促すためには、教育・住宅・働く場の3点セットが必要。

(山本 多恵 委員)

- ・小中学校のうちは町内で子育てしやすいと感じたが、高校や大学へ通学しようと思うと負担がとても大きくなる。子どもが大きくなるにつれて、親も子どもも不便であることが身に染みて感じるので転出に繋がると思う。

(宮地 舞 委員)

- ・外国人はコミュニティが広い。それに応じた施策を打ち出すことも効果的。
- ・一方で、外国籍の子どもが増えて問題が発生する場合もある。人口構造を考えるうえで外国人を充てるかどうかは早急に議論していただきたい。

(榊原 英治 委員)

- ・昔に比べて今はバスや電車の本数が減っているので不便である。そのような中でも内海には駅があるので、子育て世代専門の住居を設けるような駅開発をおこなうことも転入を増やす手段の一つ。

(坂野 真由美 委員)

- ・住む場所・仕事・医療があれば、田舎でのびのびと子育てしたいという都会の方も増えている。漁師や農業の方の家賃補助をもっとPRしてはどうか。
- ・ワーケーションを推進したらどうか。田舎で仕事をしながら暮らしたいと思っている若者達もいると思うので、その方たちが住んで子どもを産むという方法があるかと思う。

(千頭 聡 会長)

- ・美浜・南知多町の売りは何だと思うか。もう一度見直すとよい。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・15～49 歳の女性人口は現在何人いるか。

(事務局)

- ・最新である令和2年の国勢調査は 2,440 人。

(千頭 聡 会長)

- ・一歩も南知多町から出ないということは難しいため、一度町外へ出て行っても戻って来てもらうための取組も大事。高校生になってからでは遅いため、中学生に地元の魅力を伝えることが大切。

(事務局)

- ・KGI 75 人から 65 人に設定させていただきたい。ご審議いただきたい。

---KGI 変更賛成---

議題3 町民意識調査結果及び基本施策の数値目標について

【事務局の主な説明】

- ・基本目標の集計方法について、前期計画では認知度・満足度・貢献度1から3を回答した人の割合を測定していたが、中期計画では認知度・貢献度1から2、満足度1から3を回答した人の割合を測定しようと考えている。
- ・基本目標の目標値は、新しい集計方法で令和3年から令和6年までの平均値プラス 20pt にしたいと考えている。
- ・基本施策の集計方法について、前期計画では重要度1から3を回答した人のうち、満足度1から3を回答した人の割合を測定していたが、中期計画では認知度1から2を回答した人のうち、満足度1から2を回答した人の割合を測定しようと考えている。
- ・基本施策の目標値は、基本目標と同様に新しい集計方法で令和3年から令和6年までの平均値プラス 20pt にしたいと考えている。
- ・現状値を基本目標、基本施策共に令和3年から令和6年までの平均値としたのは、年度によってばらつきがあるためである。

【委員の主な意見】

(宮地 舞 委員)

- ・各基本施策において目標値を考慮した予算が充ててあるのか。

(事務局)

- ・予算がある無しで点数などを考慮することはない。

(宮地 舞 委員)

- ・町民の皆さんに大々的に知ってもらいたい施策、重点的に取り組みたい施策を高い目標値にするなど、焦点に当てる施策を絞った方が分かりやすいし、やりやすい。

(事務局)

- ・実施計画の中に重点施策を設けて、重点的に何に取り組んでいるのかは目に見える形になっている。

(千頭 聡 会長)

- ・行政としては目に見えるようにしているつもりでも、町民の方に伝わっていない等、広報的な問題も含まれている可能性がある。
- ・基本施策の認知度を上げることは大切だと思うが、目標値には何か表現しないのか。

(事務局)

- ・町民に知ってもらうことが南知多町の一番苦手なところである。認知度に関して特別な指標を設けることも可能だが、少なくとも知ってもらう努力は何らかのかたちで分かる状態にしないといけないと思っている。
- ・貢献度についても「3 やってみようと思う」を回答した人が「2 ある程度はある」と回答するようにシフトしてほしいという思いがある。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・基本目標の集計方法では「3 少しは満足」を入れているが基本施策では入っていない。考え方を統一した方がよい。

(事務局)

- ・基本目標で「3 少しは満足」を入れないと極端に数値が下がり、逆に基本施策に入れると数値が上がりすぎるため入れなかった。

(千頭 聡 会長)

- ・「3 少しは満足」を入れるか入れないかで差が出る理由を分析できるとよい。また、考え方を統一した方がよい。

(澤田 晟 委員)

- ・点数が高く出ようが低く出ようが、結果として出た数値なので考え方を統一した方がよい。また、どういう施策を打ってどのように反映されたかという時系列を大切にしていきたい。

(二宮 達好 委員)

- ・低いなら低いで現実的な数値が見たい。また、町民意識調査では、町民全員を対象にしてランダムで調査をすることはないか。

(事務局)

- ・モニターではない方も回答出来るよう HP にて公開している。実際の回答数は少ない。

(千頭 聡 会長)

- ・KPI の目標値については、委員の皆さんは数値が低くても8年間かけて頑張っ上げてあげようとするればよいと考えている。事務局は一度再検討していただきたい。

(鈴木 甚八 委員)

- ・2-4「何度も訪れたい観光・交流」の中に三河湾エリアに関する記載があるが、田原市までのアクセスの利便性を図ってもらえないか。
- ・インバウンド客の呼び込みについて、伊良湖や鳥羽方面への観光コースを作り、売り出してはどうか。

(事務局)

- ・個別具体的なものは総合計画に記載できない。

(副町長)

- ・具体的な施策はアクションプランで反映し、3ヶ年計画を作成して公表している。

(鈴木 甚八 委員)

- ・カーフェリーは今後使用出来なくなるかもしれない。町としては何か考えているか。

(町長)

- ・カーフェリーは観光協会だけでなく、島民の生活の足であり産業の確保にも繋がる。既に要望も来ているので、残していく前提で対処していく。
- ・伊良湖への直行便については、様々な議論がなされているため、この場でご回答出来ないが、また違う場でご意見いただくようお願いしたい。

(岩瀬 雅哉 委員)

- ・事務局として KPI の目標値は理想値か、達成できると思って設定しているか。

(事務局)

- ・前期も中期も達成すべき数値だと考えている。

(千頭 聡 会長)

- ・KPI である以上、しっかり進行管理をして確実に達成しなくてはいけないため、厳しい目標であるということが岩瀬委員の質問の背景にある。
- ・4年後に 20pt 上げるためにはどのような施策をしていくか議論が必要。

(山本 多恵 委員)

- ・町民意識調査を回答するにあたり、「2 ある程度知っている」と「3 知りたいと思う」の境界が分かりにくい。どの程度知っていると「2 ある程度知っている」を回答出来るのか。

(事務局)

- ・中身を詳しくは知らないが、名前は聞いたことがあるくらいで「2 ある程度知っている」を回答していただいていると思っている。

(山本 多恵 委員)

- ・詳しくなくても聞いたことがあれば回答してよいか。

(事務局)

- ・その辺りの境目が分かりにくいと思うので、次回以降の町民意識調査で説明を加えていく。

(坂野 真由美 委員)

- ・町民意識調査を回答することで、施策を知るという方も多いはず。小中学校や商工会、観光協会等たくさんの人に答えていただいて知ってもらおうということが出来たらよいと思う。

(事務局)

- ・今回は中学生にも自身のタブレットで回答していただくようお願いをした。依頼をすることは簡単だが、実際に集まった回答数は約 10 件。モニターとは異なり、21 施策全てを回答するのではなく、興味のある分野のみ回答出来るようにしている。

(千頭 聡 会長)

- ・今の話の中で3点気になる点がある。まず、モニターは産業団体の推薦された方であるため、その方々に集中的に施策の発信をすれば認知度は上がるはずだが、十分に出来ているか。次に、

モニターの方だけが知ってはいけないので広く町民に知ってもらうためにはどうするか。さらに、行政としては HP や広報に掲載しているのでモニターの方々に情報を集めて欲しいということか。

- ・行政としてはやっているつもりでも実際に町民の方々に届いていない部分が沢山あると思う。もっと広報を頑張っていたきたい。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・KPI の数値を一生懸命触っても、評価委員会では KPI を活用出来ていない。どういう施策がどのように反映されてどのように数値が動いたか等を評価委員会で議論したいので、その議論が出来る土台となる KPI になることを希望する。

(千頭 聡 会長)

- ・PDCA の Check は評価委員会で毎年おこなっているが、Action に繋げることが難しい。KPI が何故変動したのかの要因分析も出来たらすごくよい。こういったことを評価委員会でやるべき。
- ・議題3のまとめとして、「3 少しは満足」の扱い方については事務局で再検討していただき、どのような施策をして目標値まで上げるのかについては毎年の評価委員会で検討するということである。

その他

(事務局)

- ・次回の審議会では、第1回でお話させていただいたとおり、基本目標「地元をにぎわすしごとづくり」を一番上に持っていくということについての最終決定をさせていただく。
- ・今までの評価委員会や町民意識調査で出た意見を踏まえて、総合計画の冊子に掲載する基本施策の内容について各課にて修正をした。次回の審議会までに、ご意見をいただくよう依頼する。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・重点政策の管理指標をどのように設定していくかを皆さんにお伺いして決めていかないとけない。

(事務局)

- ・重点政策自体は設けるが、その KPI についてはアクションプランに掲載しようと考えている。

(千頭 聡 会長)

- ・重点政策は審議会で議論しないということか。

(事務局)

- ・重点政策自体は議論いただき、その KPI については別にさせていただきたい。
- ・評価委員会でも重点政策の話を持っていきたい。目標値を達成するために何をすべきか毎年のアクションプランで反映させれば PDCA が回る。

(秦 由岐穂 副会長)

- ・目指すべき数値とどのようにビジョンを描くかは大きく関係しているため、分けて考えるとチグハグした印象を受ける。一定の目標は明確なビジョンになるため、総合計画に書く文章と連動してほしい。

(千頭 聡 会長)

- ・次回までに重点政策やその KPI についてまとめておいてほしい。
- ・総合計画に掲載する基本施策の文章について、見え消し状態で送ってもらい、4年前とどのように変わったかを比較しながら、強化すべきところ等のご意見をいただけたらと思う。

以上